

TAOISM 生きる、創る、そして渡すための構造

ライスワーカー・ライフワーカー・ライトワーカーという三段階

仕事の本質は「段階」 であり「順番」である

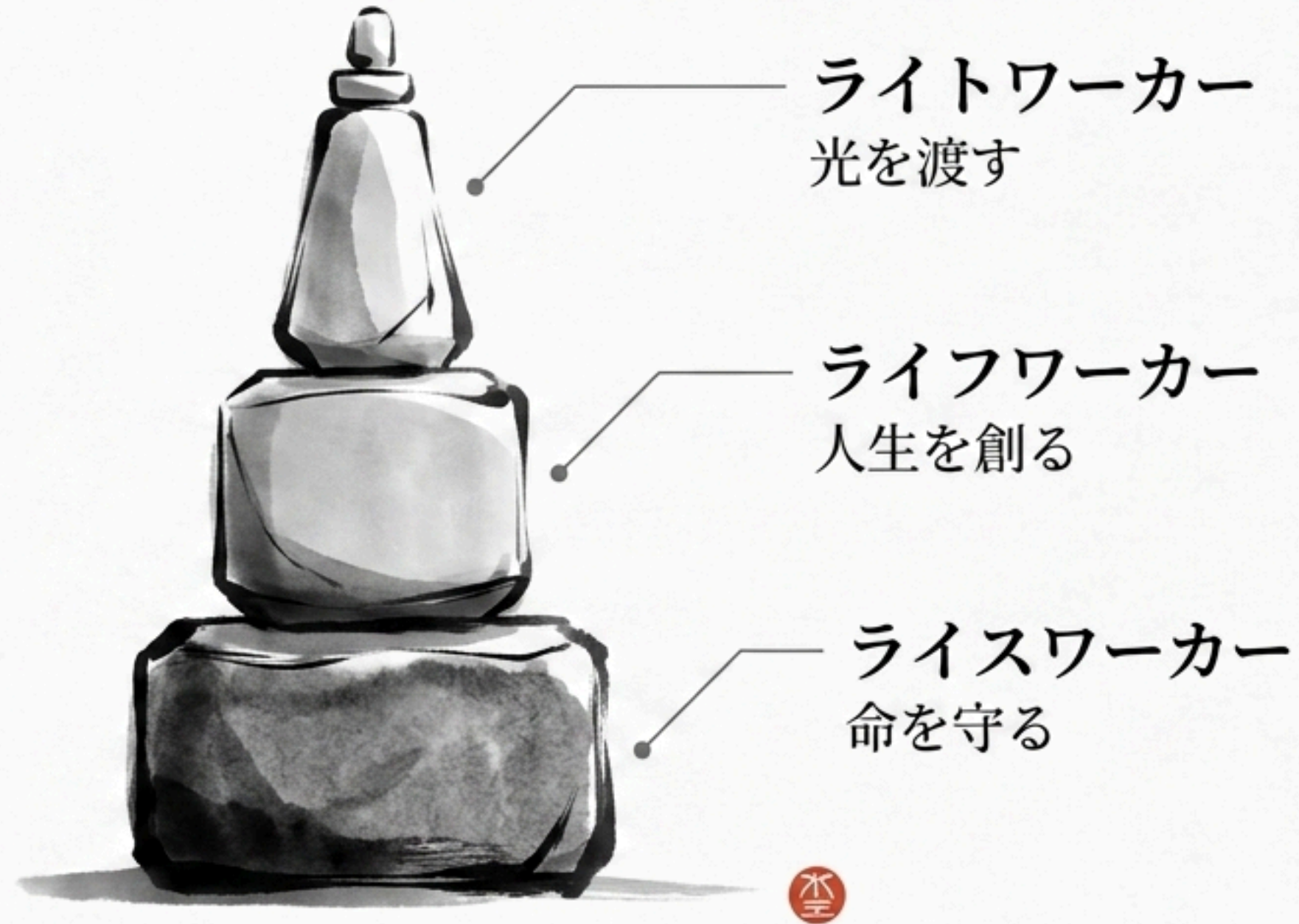
人は一足飛びに完成形には至らない。

①まず生きる。次に生き方を選ぶ。
そして最後に、誰かのために使う。

この自然な流れ（構造）が崩れるとき、
人生に「歪み」が生まれる。●



人生を構築する三つの階層



命を守る土台としての「ライスワーカー」



食べるために働き、家賃と税金を払い、
生活を守る段階。

これは最低限の行動ではなく、
「最重要の土台」である。

「空腹では優しくなれない。」
余裕がなければ判断は乱れる。
ここが整っていない状態で
理想を語っても成立しない。




苦役から表現への転換点 となる「ライフワーカー」

生きがいのために働く段階。

好きなこと、得意なこと、美しいと思うことを
行動に変え、人生を「作品」として扱う。

ここで初めて、
仕事は「苦役」から「表現」へと変わる。
自分の人生をどうデザインするかが問われる。



価値の循環を生み出す 「ライトワーカー」

他者や社会に還元する最終段階。

自分が得た経験、乗り越えた苦しみ、
そこから得た気づきを次の誰かのために使う。

「自分が苦しんだことほど他者を救える。」
ここに真の価値の循環が生まれる。



現在地を知るための三段階比較マトリクス

	ライスワーカー	ライフワーカー	ライトワーカー
目的	生き残るため	生きがいのため	他者に還元するため
状態	基礎・土台	表現・作品	循環・共有
アクション	食べる、 家賃・税金を払う	好きなこと、 得意なことをする	経験を伝え、 他者を救う
必要なもの	安定した生活基盤	自分軸のデザイン	乗り越えた苦しみ と気づき





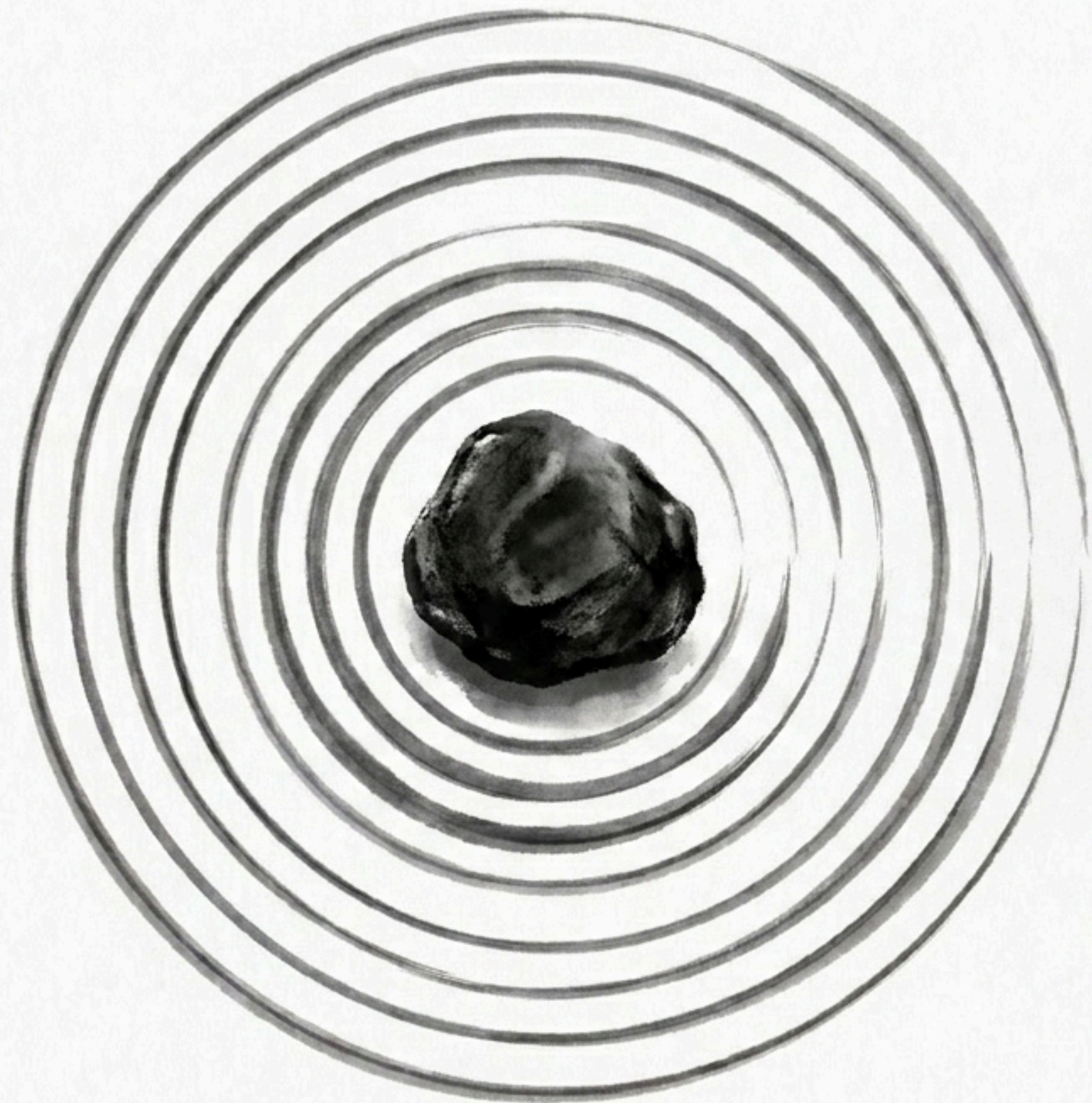
段階を飛ばすことで生じる人生の「歪み」

理想ばかり追って、土台を軽視していないか？

「自分が満たされていないのに、誰かを満たそうとしていないか。」

人は慢心し、段階を飛ばし、自分を大きく見積もろうとする。しかし現実にはシンプルである。順番を守れているか、それだけである。





実践の第一歩は 「生活を整える」こと

ここを絶対に軽視しないこと。

一 玉 収入を安定させる

二 玉 支出を整える

三 玉 身体と心を守る



第二の実践は 「自分の軸を育てる」こと

自己との対話を続け、以下の問いを深める。

何が好きか？

何が得意か？

何に誇りを持てるか？



最終段階は 「他者に還元する」こと

ここで初めて「徳」が問われる。

- 経験を次へ伝える。
- 支えられる側から、支える側へ回る。
- 共同体に価値を流し込む。

すべての段階は対立ではなく「調和」である

TAOISMは「整える」思想である。

ライスワーカーがいるから、社会は回る。

ライフワーカーがいるから、文化が生まれる。

ライトワーカーがいるから、人は支え合える。🍵

本質を見抜き、理屈を理解し、徳を磨き、共同体と共に歩む。

あなたは今、どこにいるだろうか。

その問いに向き合うことが、すべての始まりである。

道

